

第4回定例会 一般質問

12名の議員が市政を問う



鶴見 久美子 議員

フレイル健診について

問 フレイルとは、加齢とともに心身の活力、運動機能や認知機能等の低下など、生活機能が障害されることであり、高齢者が発症しやすい。早く気づき正しい治療や予防を行うことにより、健康寿命の延伸にもつながる。国では来年度からの導入が決まったが、市としての実施と課題について伺う。

答（生活安全部長） 県後期高齢者医療広域連合では、令和6年度までに県内全市町村での実施を目指しており、実施には地域の健康課題の抽出や事業計画策定等の課題がある。市でも関係部署と連携を図り、より早い段階での事業実施を目指したい。



成人用肺炎球菌ワクチン接種事業について

問 高齢者の死亡率が高い肺炎予防として、65歳から5歳刻み

の各年齢になる方が、生涯に1回だけ活用できる制度によるワクチン接種が有効である。接種率向上のための対策、未接種を防ぐための個別通知による再勧奨の所見を伺う。

答（健康福祉部長） 65歳から100歳までの5歳刻みで、任意も含め、一度も接種していない方に4月初めに個別通知を行い、広報紙等で周知している。未接種者には個別通知での再勧奨は行っていないが、広報等で案内している。未接種者の再通知は有効な取り組みであるが、国の制度は一度も接種していない方が対象のため、今後通知の対象者や時期、内容を検討する必要がある。



高橋 秀彰 議員

災害廃棄物処理計画の策定について

問 地震や豪雨等の大規模自然災害に備え、災害で予想される廃棄物の発生や分別方法および仮置き場の位置、また、近隣自治体等との連携や支援体制などを決めておく「災害廃棄物処理計画」の策定は、市民生活の安心・安全につながる必要不可欠な準備であり、今後、迅速な策定が必要と考えるがどうか。

答（生活安全部長） 災害廃棄物処理計画の策定は、実際の災害廃棄物の見込み、それに対応できる仮置き場の規模の把握等課題がある。現在、国の災害廃棄物処理計画策定モデル業務において、茨城県内のモデル自治体として参加し、他自治体と意見交換等行いながら、今年度末の策定に向け作業を進めている。

キッズゾーンの設定について

問 園児ら未就学児が、安心して園外活動、散歩等ができる環境整備が必要である。日常的に集団で移動する移動経路の安全確保に向け、「キッズゾーン」の整備や園外活動等を見守る「キッズガード」の配置等が必要と考える

がどうか。

答（健康福祉部長） キッズゾーンの整備は、交通規則や路面舗装、ガードレールの設置等、市内の該当施設の意向を確認の上、行政区や自治会、警察などの関係機関と協議、調整を行い、市の地域実情に合った適正な設定を検討していきたい。キッズガードの配置強化には、保育補助者雇上強化事業の普及がその一助になるものと考えている。



キッズゾーン